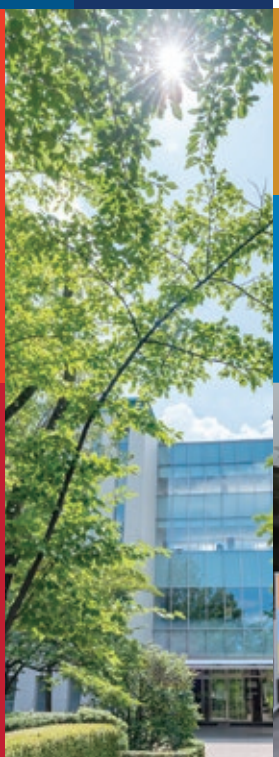
獨協大学 SDGs報告書 2024

DOKKYO UNIVERSITY
SDGs REPORT 2024



PRESIDENT'S MESSAGE | 学長メッセージ

大学構成員のひとりひとりが、社会課題解決の担い手に。地域とともにSDGs活動に取り組みます。

獨協大学 学長 | 前沢 浩子

獨協大学は2021年3月、埼玉県内の大学として初めて「埼玉県SDGsパートナー」への登録を行ったことを機に、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲット達成に向けた教育・研究を推進してまいりました。

2024年度SDGs推進連絡会では、「獨協大学SDGs行動指針」に基づき２つの年度方針を掲げました。ひとつは「埼玉県SDGsパートナー」で宣言した目標の達成に向けて、学生及び教職員に対するSDGsの啓発活動を推進し、学生による取り組みを支援すること。そしてもうひとつの方針は、草加市との協議を通し、SDGsに関する連携を深めることです。

草加市と本学は2007年に「草加市・獨協大学協働宣言」及び「草加市・獨協大学基本協定書」に調印しました。2023年にはその「基本協定書」にSDGsの文言を盛り込み、持続可能なまちづくりのための連携強化を確認しました。開学以来60年間、草加市とともに歩んできた本学にとって、地域との結びつきは欠かせないものです。2024年には「そうかSDGsパートナー」にも登録され、今後さらに緊密な連携をはかってSDGs活動に取り組んでまいりたいと考えています。

本学では、学生・教員・職員そして父母の会が一体となってSDGs活動に取り組んでいます。今年度、注目を集めた活動の例としては、障害福祉サービス事業所が製造・販売する新商品の共同開発「産官学福コラボスイーツ」において、本学の学生がパッケージ・デザインと販促ツールの作成をしたことが挙げられます。その他にも、ゼミ等の学生団体が、福島県の特産品を集めた物産展を開催するなど、地域課題に着目した活動を行いました。

また、父母の会からは、入学式にて新入生全員に対しオリジナルウォーターボトルを配付いただきました。猛暑や乾燥から学生の健康を守り、同時にエコロジーや資源保全などの地球規模の課題を意識化するよい機会となっています。

本学は創立以来、普遍的な原理に照らして自らの行動を決定できる「実践的な独立の人格」の育成を目標に掲げています。そしてSDGsの「だれひとり取り残さない」というスローガンは、まさに普遍性を持つ原理です。その原理に基づいた教育と研究を行う場として、獨協大学は今後も地域とともに、積極的にSDGs活動に取り組んでいきます。

本学初の女性学長として、その理念とリーダーシップが注目されています

「東京&ベルリン：女性科学者の首都」にパネリストとして参加

5月15日、東京都とベルリン市の友好都市提携30周年を記念するイベント「東京&ベルリン：女性科学者の首都」に、前沢浩子学長がパネリストとして参加しました。
「科学、社会、ネット空間におけるジェンダーギャップ」をテーマに、知の世界でのジェンダー平等を実現するための課題や対策について、意見交換がなされました。前沢学長は、本学が女性の活躍促進のためどのような取り組みをしているか発言しました。

「学術人事におけるジェンダー平等の推進」にパネリストとして参加

11月22日、日本とドイツの大学およびドイツの大学が加盟する機関の代表者が一堂に会し、学術職におけるジェンダー平等の重要課題について議論するイベント「学術人事におけるジェンダー平等の推進」に、前沢浩子学長がパネリストとして参加しました。
研究・教育における包括性や多様性、研究・イノベーションの推進について意見交換がなされ、前沢学長は、女性の活躍促進のための本学の取り組みについて発言しました。

獨協大学SDGs行動指針

獨協大学は、学則第１条「社会の要求する学術の理論および応用を研究、教授することによって人間を形成し、あわせて獨協学園の伝統である外国語教育を重視して今後の複雑な国内および国際情勢に対処できる実践的な独立の人格を育成する」の理念の下、社会の発展に寄与するSDGsの達成を担う人材を育成します。

1. 本学構成員のSDGs達成に向けた意識の向上と認識の共有

獨協大学は、学内構成員ひとりひとりがSDGsに関する認識を共有し、持続可能な社会の発展について主体的に考える環境を提供してSDGs啓発活動に取り組みます。

2. 持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現

獨協大学は、「獨協大学人権宣言」に基づき、「誰一人取り残さない」社会実現の一翼を担うべく、人権が擁護され、誰もが平等な教育研究の機会を与えられ、人として成長できる場を創造します。また、多様な人材が輝きをもって活躍できるよう「ダイバーシティ（多様性）＆インクルージョン（包摂性）の推進」に取り組みます。

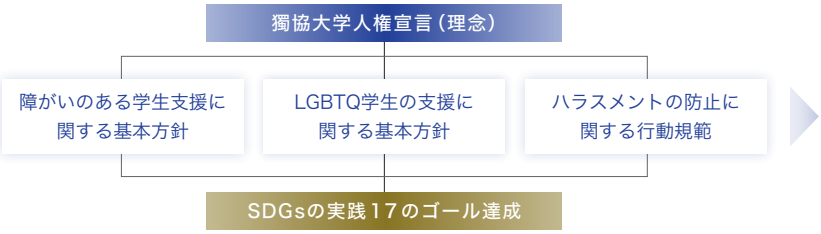
3. 地球規模の課題への取り組み

獨協大学は、温室効果ガス削減、貧困と飢餓の撲滅、質の高い教育、社会の平和と公正を含むSDGsの達成に、関係機関とパートナーシップを形成して取り組みます。

4. 地域の課題への取り組み

獨協大学は、地域社会が抱える課題の解決に向けて、自治体、民間セクター、地域住民、NPO/NGO等と連携して取り組みます。

【　本学におけるSDGs推進のイメージと期待される効果　】



期待される効果

- 多様な人材の受け入れと育成
- 教育・研究のさらなる充実
- 国際化・グローバル化のさらなる推進
- 社会的課題解決と地域貢献

2022年3月　獨協大学

獨協大学人権宣言

獨協大学は、「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念を実現するために、誰もが平等な教育研究の機会を与えられ、その人権が擁護され、人として成長できる場を創造することを宣言します。

1. 獨協大学は、国や地域の法令、建学の理念、学則などの規範を遵守します。
2. 獨協大学は、すべての人間は生まれながらにして平等であるとの認識に立ち、人権を擁護し、多様性を尊重します。学生、教職員、その他関係者は、互いの尊厳を守ります。
3. 獨協大学は、国籍、性別、宗教、年齢、障がいの有無、性的指向・性自認などによる偏見や差別を許しません。人間の尊厳を損なう行為を決して放置せず、健全な教育研究環境と職場環境の整備を加速させます。
4. 獨協大学は、学生、教職員、その他関係者が持つ多様性が創造的な教育研究成果を生み出す体制を整備します。
5. 獨協大学は、地域との連携を深めながら、誰もが互いに人格と個性を認め合い、支え合う共生社会の構築に貢献します。

2020年8月15日　獨協大学

獨協大学環境宣言

私たちは、地域環境や地球環境の保全を重要課題とする社会の責任ある一員として、すべての教育、研究活動を通じて、人々の健康増進と環境保全に寄与することを目標に掲げ、以下のことに積極的に取り組みます。

◎ 環境教育、環境研究、環境啓発活動に取り組みます
◎ 省エネルギーや環境保全に適合した設備、備品を使用します
◎ モノや資源を大切に使うとともに、ゴミの減量化やリサイクルを推進します

2008年6月　獨協大学

食・環境・省エネ……思い思いに選んだテーマで、SDGsに向き合った4年間
地域とつながり、より広く、獨協大学らしいSDGsを発信！

・CROSS TALK・ クロストーク ・

様々な切り口からSDGsを学び、実践している獨協大生たち。今回は地域の各種団体と協力して「食品ロス削減」に挑む高安ゼミと、地域の「環境保全」に取り組み、「Earth Week Dokkyo*」でも主導的な役割を果たす米山ゼミのメンバーが集合。本学での経験から得たものや、将来へとつながる成長についてお話いただきました。 ＊P.6参照

きっかけやはじまりはささやかであっても

[redacted]：SDGsに関心を持ったきっかけは、高校時代のアルバイトです。パン屋で、毎日大量の食品ロスが出ていて……それで入学後、食をテーマにした取り組みができるゼミを選びました。

[redacted]：僕らの世代は、幼い頃からSDGsという言葉や取り組みを知っています。でも、本当にアクションを起こせたのは、やはり大学に入ってからでしたね。

[redacted]：私もそうです。高校生の頃に学科のパンフレットで、米山ゼミの先輩たちが代々、近隣の環境保全に取り組んできた実績を知って、このテーマにチャレンジしてみようと思いました。

[redacted]：私たちは主に環境をテーマに活動していますが、いざ取り組んで思ったのは、学生が4年間にできることってとても少ないな、と。だからって無意味でもない。プロジェクトを通じて地域の方や企業と関わるとき、学生が間に入ることで耳を傾けてもらいやすくなるんです。

[redacted]：学生のアイデアでスタートしたことが、ひとつ形になったからといって終わりでもないですしね。後輩に託したり、学外と連携してもっとスケールが広がる可能性もありますから。

獨協大学が、多くの人をSDGsに巻き込む拠点に

[redacted]：学生のうちから様々な団体や自治体と関わることで、視野が広がりますよね。埼玉県がとても熱心に食品ロス削減に取り組んでいることなど、入学前は知らなかったことを、今は知っているし、その広報ツールづくりにもチャレンジしました。出来上がった冊子を見ると、実践的な学びをしたなという達成感があります。

▲SDGsに取り組む高安健一ゼミ

[redacted]：私がいい体験をしたなと思ったのは、おいしい焼き菓子をつくる福祉事業所での商品開発でした。コロナ禍で売り上げが300万円も減ったので、新たな商品を開発したいという相談でしたが、SNSを利用した広報や販路開拓なども考え、大学の友達も購入してファンになってくれました。課題解決のため、最初から最後まで関われる機会って、大学生ではなかなかありません。

[redacted]：SDGsの場合、より多くの人を巻き込むことが大事ですよね。米山ゼミでは歴代の先輩が川の清掃活動を始めて、カヌーでのゴミ拾いをしています。興味がありそうな通りすがりの学生に声をかけて参加してもらうこともあるんですよ。

▲米山ゼミ川ガキ体験事業「カヌー体験会」

[redacted]：夏冬に行われる「Earth Week Dokkyo」は、そういう意味でもすっかり学内外に根付きましたね。環境だけじゃなく食、平和、ジェンダー、フェアトレードなど、多彩なテーマの出展があって、楽しみながらSDGsに触れるきっかけになっています。

学び、成長し、さらにその先へ。獨協SDGsは続いていく

高安：毎年どんなテーマを選ぶかは、学生の自由にまかせています。どのプロジェクトも、チームみんなで討論し、実践し、ミスや修正を繰り返して練られていく。その過程で成長する姿を見るのは、教授陣としても楽しい経験ですよね。

米山：SDGsに取り組んでいるといっても、一過性のイベントではダメです。本気で社会実装を目指して欲しいですし、学生にはそれができるチカラがあります。

[redacted]：私はSDGsのうち、大学の二酸化炭素排出量削減を業務として担当しています。建物側では様々な省エネ技術を導入していますが、大学という機関で省CO_2を実現するには学生のみなさんの力が必要不可欠です。また、埼玉県は省CO_2に積極的で、高いCO_2排出量削減目標を掲げており、学生のみなさんの新たなアイディア、協力により、この目標を達成できたらと考えています。

高安：今日集まってくれたみなさんは、SDGsの実践を通じて成長し、卒業後も様々な形でSDGsに係る職業に就くと伺っています。本学での学びや気付きが、人生の選択肢に影響を与えるくらいインパクトがあったのなら、大学としても光栄なことですね。

より良い社会の実現を目指して。キャンパスを超え、社会・地域・団体と連携しています

「そうかSDGsパートナー」に本学が第１号で登録

10月31日、埼玉県草加市が選定する「そうかSDGsパートナー」の第１号に本学が登録されました。
「そうかSDGsパートナー」は、草加市が2024年５月に内閣府より「SDGs未来都市」と「自治体SDGsモデル事業」のダブル選定を受けたことを機に、「だれもが幸せなまち 草加」の実現を目指して、まちの課題解決に向けた取組をともに進めるために制度化したものです。本学は地元草加市と連携し、SDGs活動に取り組んでまいります。
また本学は2021年以来、SDGsへの取り組みを自ら実施、公表する県内企業・団体等を登録する埼玉県の制度「埼玉県SDGsパートナー」となっています。
2024年３月31日に行われた登録更新にあたっては、「CO_2排出削減」、「SDGs関連科目履修者数の増加」、「教育的視点を踏まえた経済的関係性の強化」の３点を、重点的な取り組みとして掲げています。

産官学５者によるまちづくり連携協定を締結。記念イベント「獨協大学前〈草加松原〉 WELL FES」を開催

5月９日、草加市、独立行政法人都市再生機構東日本賃貸住宅本部（UR都市機構）、東武鉄道株式会社、トヨタホーム株式会社、獨協大学の５者は、埼玉県草加市の獨協大学前〈草加松原〉駅西側地域における産官学連携によるまちづくりに関する協定を締結しました。
草加市立松原児童青少年交流センター「ミラトン」で開催された５者連携協定締結式には、各者の代表と前沢浩子学長が出席。前沢学長は「自然環境と人間の生活が調和し、心豊かな日々を送り続けられる、持続可能な社会こそ「成熟」した社会。21世紀の草加松原の地がその新たなモデルとなれるよう、５者が手を携えて力を尽くしていく所存です」と挨拶しました。

あわせて5月11日には、連携協定締結記念イベントとして「獨協大学前〈草加松原〉WELL FES」を開催し、ふれあい移動動物園、マルシェ、スマートモビリティ試乗体験など、まちを楽しむ様々な企画が催され、たくさんの方が来場しました。

市内の社会福祉施設と連携し、手作り焼き菓子やパンの開発・販売を実施

本学では定期的に、市内の社会福祉施設（草加かがやき特別支援学校・障害福祉サービス事業所つばさの森）と連携し、相互理解を深める取り組みを行っています。これまでは主に大学の購買力を活かし、各施設が製造する食品の販売活動などを支援してきましたが、2022年度からは経済学部・高安ゼミ生を中心に、コロナ禍で減少した売上を回復させるための商品開発や広報活動にも注力。つくる・売る・消費するという経済活動の流れを学びつつ、SDGsへの理解を深める実践教育の場となっています。

産官学福コラボスイーツ発表会を開催

10月８日、本学は「産学官福コラボスイーツ発表会」を行いました。この企画は、草加市、草加市社会福祉事業団、株式会社モンテール（埼玉県八潮市）、日本薬科大学（埼玉県北足立郡伊奈町）および獨協大学の５者が、2023年11月から実施してきた障害福祉サービス事業所「つばさの森」が製造・販売する新商品の共同開発「3Cプロジェクト※」の成果を発表するものです。
本プロジェクトで完成した商品「ゴロっとさつまいもの小松菜パウンドケーキ」、「シャキッとりんごの小松菜パウンドケーキ」のパッケージ・デザインと販促ツールの作成は、獨協大学広告研究会のメンバーが行いました。コラボスイーツは11月２日に開催された「草加ふささら祭り」から販売を開始し、つばさの森のほか、日本薬科大学、獨協大学、モンテール直売店で販売されています。

※3Cはチェック（check）・改良（change）・チャレンジ（challenge）の略。

子ども食堂「ほのぼのハウス」開催

10月26日に開催された子ども食堂・ほのぼのハウスは、SDGsを学ぶ香取ゼミ生が「社会のためになることを大学生でもできる！」との思いから立ち上げたイベントです。地域の子ども食堂でボランティアを体験した学生が、学生の立場・視点を生かし、より参加者とのコミュニケーションを重視した交流の場にと企画されました。

緑・水・いきものたち。生物多様性に富んだキャンパスから、多彩な層に向けてSDGsを発信します

Earth Week Dokkyo今年も盛況

獨協大学環境週間"Earth Week Dokkyo"は、夏･冬の年2回行われる学生、教員、職員が自由に企画･実施できるプラットフォームです。「地球の抱える問題を考えて行動に移す１週間」をテーマに、毎年たくさんのイベントや展示が実施されます。
ワークショップや公開授業などを通して、獨協大生はもちろん、地域のみなさんにも、地球の現状と今後の持続可能な社会について考える機会を提供しています。

米山ゼミ、ゴーヤの苗を配布

5月22日、経済学部・米山ゼミが、SDGs活動推進の取り組みの一つとして、草加市環境課との協働により学生や教職員にゴーヤの苗を配布。自宅で夏の暑い日差しを遮る緑のカーテンをゴーヤで作り、地球温暖化対策への協力を呼びかけました。
苗の配布は、米山ゼミの「地球温暖化防止プロジェクト」チームが、夏に実施される獨協大学環境週間"Earth Week Dokkyo 2024 ～ Summer ～"のプレイベントとして毎年行っており、苗は草加市環境課から提供されています。

獨協大学コミュニティスクエア、「令和６年度 彩の国みどりの優秀プラン賞」受賞

埼玉県では毎年、ふるさと埼玉の緑を守り育てる条例に基づき届出が行われた緑化計画の中から、特に優良な緑化計画を表彰しています。
2024年度は、本学の「大学施設（獨協大学コミュニティスクエア）」に係る緑化計画が、緑地設計や維持管理状況などが他の模範となるものであると認められ、「令和６年度 彩の国みどりの優秀プラン賞」を受賞しました。コミュニティスクエアは、大学利用者だけではなく、地域の市民講座やクラブ活動、演奏会、防災訓練などに広く活用されており、その公開性の高さが評価されました。

第１０回伝右川再生会議を開催

11月16日、国際環境経済学科と環境共生研究所は「第10回伝右川再生会議2024」を共催し、関係者・市民含めて約300人もの熱心な参加者が集まりました。
第10回目となる今回は、大野元裕埼玉県知事が、「埼玉県における川との共生」をテーマとする基調講演を行いました。
後半のパネルディスカッションでは、米山昌幸教授による「伝右川再生会議の10年間のあゆみ」に続き、[redacted]）が、伝右川再生に向けた獨協大生の活動を報告。これまでの継続的な活動について、県知事から高い評価をいただき、今後も行政と連携した取り組みを進める意義を再確認することができました。

「SDGsエコフォーラムin埼玉～つながろう　広がろう　世代を超えて　エコの環～」を本学で実施

12月７日、「第６回SDGsエコフォーラムin埼玉」は、持続可能な社会の構築を考えるイベントとして、環境共生研究所も共催して、本学で開催されました。イベントでは、県内において環境を中心とする活動を実践している団体、企業、行政、教育機関、地球温暖化防止活動推進員等が集まっての情報交換、相互交流、情報発信等を行っています。
午前中の基調講演では、前沢浩子学長が「イギリス文化と自然―新たな価値観のために―」というテーマで、イギリスの歴史や文学から自然の扱われ方を振り返り、トッドモーデンから始まったインクレディブル・エディブルの話から市民活動によるSDGsの大切さを話しました。
午後の分科会では、獨協大学企画として、「都市と地方が支えあう脱炭素まちづくり」を開催。環境省、獨協大学コンサル、福島県田村市環境課からの講演を行い、米山ゼミ日野原楓・丹野悠太（いずれも国際環境経済学科４年）が「福島県田村市における再エネを活用した分散型エネルギーシステム構築と地域循環共生圏創造の提案」を行いました。

大学があり、学生がいる。全学一体となって、SDGsへの関心を高める取り組みをしています

『獨協大学SDGsキャンパスガイド～心と体の健康編～』を発行

6月、経済学部・高安ゼミに所属する「SDGs広め隊2024」が『獨協大学SDGsキャンパスガイド～心と体の健康編～』を発行し、構内で配付しました。6人の学生は、「構内にSDGsの達成に資する施設が多く存在しているにもかかわらず、学生が十分に利用できていないのでは」との問題意識を抱きプロジェクトを立ち上げました。冊子では、心と体に関連する給水器、トレーニングルーム、保健センターなどが写真やイラストを使って紹介されています。

女子トイレに生理用品無料提供ディスペンサー「OiTr」を設置

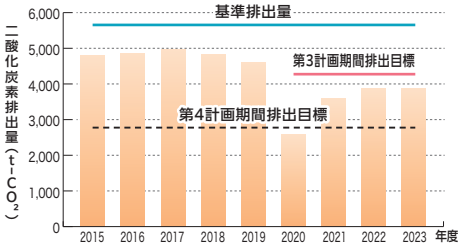
2月21日、生理用品無料提供ディスペンサー「OiTr（オイテル）」18台を学内女子トイレに設置しました。OiTrは商業施設や公共施設などの個室トイレに生理用ナプキンを常備し、無料で提供するサービスで、利用者が、指定のアプリをダウンロードし、ディスペンサー本体にスマートフォンをかざすことで、無料で生理用ナプキンを受け取ることができるシステムです。
OiTrは、学生からの提案をきっかけに導入が決定しました。生理に伴う心理的・経済的負担を軽減することで、SDGsが掲げる貧困や不平等の解消、健康と福祉の向上を目指しています。

学友会団体WAPの献血活動に、埼玉県赤十字より感謝状

愛好会ボランティアサークルWAP（We Are Pieces）は、長年にわたり年2回の献血促進活動を実施してきました。今年も5月・11月に開催された献血への呼びかけでは、学生、教職員ほか多くの方が献血に協力しました。
この度、長年にわたる大学構内での献血活動への協力が評価され、埼玉県赤十字血液センターより感謝状が贈られました。同サークルは、献血活動の他に、草加市周辺における子ども食堂支援やゴミ拾い、地域の方々との交流などにも取り組んでいます。

CO_2排出量の低減

獨協大学の二酸化炭素排出目標と排出量の年間推移



本学では、自然エネルギー利用促進のため、2007年竣工の天野貞祐記念館以降、新たな建物には太陽光発電装置を設置し、現在、一般家庭120軒以上に相当する設備容量で発電をしています。また、“Earth Week Dokkyo”での「全学ライトダウンプロジェクト」の効果が大きかったため、大学としての省エネ施策へと発展させ、現在に至っています。これらを含めた省エネの努力により、契約電力を2,300kWから1,700kWに下げることに成功しておりコロナ禍の影響もありましたが、埼玉県地球温暖化対策推進条例の第3計画期間（2020～2024年度）の二酸化炭素排出目標（22%削減）をクリアすることができる予定です。ただし、第4計画期間（2025～2029年度）の排出目標は50%とされており、現在の削減率（約30%）から想定すると、現状の省エネ対策だけではクリアできないと推測されます。このため、グリーン電力等の導入や学生の協力を得て目標の達成を計画しています。

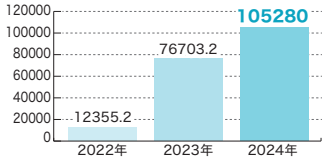
講演・討論会「第10回フクシマの未来を考える」開催

国際環境経済学科は、2011年3月11日の東日本大震災をふまえ、持続可能な社会を創造する人材を育成することを目的に2013年に開設されました。翌2014年から、福島県の抱える問題を通して、日本社会、世界を俯瞰した課題解決に取り組む講演・討論会「フクシマの未来を考える」を開催。10回目を迎えた今年は、11月13日に福島県企画調整部長の五月女有良氏に基調講演をいただき、福島県「大学生と集落の協働による地域活性化事業」および「大学等の『復興知』を活用した人材育成基盤構築事業」に参加する学生8名が活動を報告しました。

入学式で、父母の会製作のオリジナルウォーターボトルを新入生全員に配付

父母の会では、大学のSDGs推進活動支援の一環として、これまで給水器2台の寄贈と2023年度にはウォーターボトル2,000本を配付しました。この取り組みを継続し、2024年度は入学式にて新入生全員にウォーターボトルを配付しました。給水量を基に算出した2024年のペットボトル削減本数（500ml換算）は21万本に相当します。

獨協大学の給水器利用量（単位：リットル）
※2022年8月から使用開始。2023年11月より6台稼働。



2024年に展開した、おもなSDGs活動

1	1月15日	経済学部・高安ゼミが「NHK首都圏ネットワーク」で、ゼミで製作した皮革製品について説明
2	2月3日～3月30日	春休み中の高校生・予備校生への図書館開放（夏休み中にも実施）
	2月7日	合氣道部が草加かがやき特別支援学校で体験教室を開催 A
	2月21日	女子トイレに生理用品無料提供ディスペンサー「OiTr」を設置
3	3月23日	オープンカレッジ特別講座　世界農業遺産「武蔵野の落ち葉堆肥農法」を考える ── 映画『武蔵野』を観て ── を開催
	3月31日	「埼玉県SDGsパートナー」の登録を更新
4	4月1日	入学式で新入生全員にオリジナルウォーターボトルを配付
	4月12日	草加と八潮のマスコットキャラクター来学。地元特産物を使った学食メニューをPR B
	4月16日	福島イノベーション・コースト構想推進機構交流促進部の植田誠氏が全学総合講座で講演
5	5月9日	産官学5者によるまちづくり連携協定を締結。11日に締結記念イベント「獨協大学前〈草加松原〉　WELL FES」を開催
	5月22日	経済学部・米山ゼミが、ゴーヤの苗を配布
6	6月	経済学部・高安ゼミが「獨協大学SDGsキャンパスガイド～心と体の健康編～」を発行
	6月9日	第21回国際交流フェスティバル「草加国際村一番地」開催
	6月15日	足立区との連携講座「アイルランド ハロウィーンの祭から考える私たちの社会」を実施
	6月17日～7月12日	本学図書館で特別展示「「他人の痛みを知る」ということ―ジェンダーとセクシュアリティの知識を体得する―」を実施
	6月24日～6月29日	獨協大学環境週間 "Earth Week Dokkyo 2024 ～ Summer ～ "開催
	6月24日～6月28日	経済学部・大竹ゼミが福島県会津町耻風地区物産展を開催
	6月26日	獨協大学ダイバーシティ推進連絡会が講演会「ダイバーシティ＆インクルージョンに理解のある職場選び」を開催
7	7月5日	草加かがやき特別支援学校による手作りパンの販売（12月13日も実施）
	7月16日	経済学部・藤山ゼミが草加高校との高大連携行事を開催
	7月30日	学友会団体WAPが大学内での献血活動に対し埼玉県赤十字血液センターより感謝状を受贈
8	8月3日	2024年度「こども大学そうか」入学式と第1回講義を実施 （全5回の講義のうち、第1回と第4回（10月12日）を本学で実施）
	8月5日	福島県田村市で「子ども未来講座」開講（福島イノベ機構による復興知事業の一環）
	8月20日	そうか生きもの調査運営委員会・草加市主催「第5回そうか生きもの集合調査」に 経済学部・米山ゼミ、大竹ゼミが協力
9	9月21日	本学学生が「草加市英語検定試験学習会」の講師を担当
10	10月8日	産官学福コラボスイーツ発表会を開催
	10月21日～25日	草加かがやき特別支援学校の生徒が本学で職場実習 C
	10月26日	経済学部・香取ゼミが、子ども食堂「ほのぼのハウス」を実施
	10月30日	獨協大学コミュニティスクエアが「令和6年度 彩の国みどりの優秀プラン賞」を受賞
	10月31日	「そうかSDGsパートナー」に本学が第1号で登録
	10月31日	埼玉ALLY大学ネットワークに本学が加入
11	11月13日	第10回講演・討論会「フクシマの未来を考える～大学生のうちに知っておくべきこと～」を開催
	11月16日～17日	経済学部・高安ゼミ、毎日新聞社及び埼玉県立杉戸高等学校と東武動物公園で生物多様性イベント共催
	11月16日	「第10回伝右川再生会議」を開催
	11月26日	地域総合研究所主催2024年度公開講演会「持続可能なまちづくりのための地域公共交通の役割」を開催
12	12月2日～7日	獨協大学環境週間"Earth Week Dokkyo 2024 ～ Winter ～ "開催
	12月7日	「第6回SDGsエコフォーラムin埼玉～つながろう　広がろう　世代を超えて　エコの環～」を本学で実施
	12月7日	経済学部・米山ゼミの学生が「地方創生☆政策アイデアコンテスト2024」最終審査会に進出、協賛企業賞を受賞
	12月16日～	経済学部・香取ゼミが、チャリボン活動を実施 D
	12月16日～1月31日	外国語学部・大重ゼミがコンタクトレンズケース回収を実施 E
	12月21日	DOKKYO WINTERFEST（獨協ヴィンターフェスト）～ WELL FES 2024 WINTER ～を開催
	12月22日	草加市SDGs未来都市選定記念講演会をそうかSDGsパートナーの本学で開催

A合氣道部による体験教室

B地元特産物を使った学食のグリーンカレー

C本学での職場実習

Dチャリボン活動

Eコンタクトレンズケース回収

獨協大学 DOKKYO UNIVERSITY

発行日	2025年3月1日
発　行	獨協大学　総合企画部　総合企画課　〒340-0042　埼玉県草加市学園町1-1 TEL：048（946）1635　　E-mail：kouhou@stf.dokkyo.ac.jp